

イラク情勢



I. 政治, 治安情勢

II. 経済情勢

III. 日・イラク関係

2012年7月

在イラク日本国大使館

I . イラク民主化の歩み

- 2004年 6月 連合暫定施政当局(CPA)からイラク暫定政府に統治権限を移譲 (アッラーウィー暫定政府首相)
- 2005年 1月 制憲議会選挙実施
- 4月 移行政府発足 (ジャアファリー首相)
- 10月 憲法草案についての国民投票実施, 承認
- 12月 国会選挙実施
- 2006年 5月 マーリキー政権発足
- 2007年 1月 米政権, 駐留米軍の増派決定
- 2010年 3月 国会選挙実施
- 12月 第2次マーリキー政権発足(シーア派、スンニー派、クルドからなる国民パートナーシップ政権)
- 2011年12月 米軍撤退

国民同盟 (NA: National Alliance)

159

法治国家連合 (SLA: State of Law Alliance)

89

ダアワ党(マーリキー首相) 主導

独立リスト, 覚醒評議会, トルコマン, キリスト教系政党

イラク国民連合 (INA: Iraqi National Alliance)

70

アフラル(サドル派)(サドル師)

国民潮流(ISCI)(ハキーム議長)

バドル機構(アーミリー運輸相)

ファディーラ(美德)党

国民改革潮流(ジャアフアリー元首相) 他

イラーキーヤ (Iraqiya)

88

国民リスト(アッラーウィー元首相)

国民対話イラク戦線(ムトラク副首相)

イラーキーユーン(ヌジャイフィー国会議長)

国民未来会合(イーサーウィー財務相)

発展改革運動(カルブーリ産業鉱物相)

刷新リスト(ハーシミー副大統領) 他

ワサト

イラク合意戦線(タワーフク): 6議席

イラク統一連合(IUA): 4議席

ホワイト・ブロック(ハサン・アル・アラウィー議員)

11

クルド・ブロック

49

クルド同盟(KA)

KDP(バルザーニー・クルド地域政府大統領)

PUK(タラバーニ大統領)

その他、クルド諸派(6議席)

8

「変革」リスト(ナシルワーン・ムスタファ代表)

2

シーク 黄色 クルド 緑 スンニー 粉 世俗

(議員定数325議席)



タラバーニー大統領
(クルド同盟: PUK党首)



ハーシミー副大統領
(刷新リスト代表)

フザイー副大統領
(SLA: ダアワ党幹部)



大統領評議会

12月21日
新政府発足
2011年2月13日
8閣僚任命
4月4日
計画相任命
5月12日
3副大統領任命
7月11日
アブドゥルマハディ
副大統領辞任
7月30日
一部を除いた国務相
廃止を国会にて可決
8月半ば
電力相辞任
8月16日
ドゥレイミー文化相が
国防相代行兼任
8月24日
シャハリスターニー
副首相が
電力相代行兼任
10月10日
ジュマイリー電力相任命

NA等
(主にシーア派系)

閣僚評議会

マリキー首相
(ダアワ党党首)



シャウィース副首相

シャハリスターニー副首相(独立系)

ムトラク副首相(国民対話戦線)

石油相 : アブドゥルカリーム・ルアイビー (SLA)
運輸相 : ハーディー・アル・アーミリー (バドル機構代表)
水資源相 : ムハンナド・アル・サアディー (SLA)
高等教育相 : アリー・アル・アディーブ (SLA)
人権相 : ムハンマド・スーダーニー (SLA)
住宅建設相 : サーヒブ・アッダッラージー (サドル派)
労働社会相 : ナッサール・ルバイエ (サドル派)
観光遺跡相 : リワー・スメイシム (サドル派)
計画相 : アリー・アル・シュクリー (サドル派)
青年・スポーツ相 : ジャーシム・ジャアファル (SLA) ※再任
司法相 : ハサン・アル・シャンマリー (ファディーラ党)
地方自治公共事業相 : アーディル・アル・ムホーディル (サドル)
女性担当国務相 : イブティハール・アッザイディー (SLA)
国会担当国務相 : サファアッディーン・アル・サーフィー (SLA) ※再任

外相 : ホーシャル・ズイーバーリー (KDP) ※再任 スンニー
貿易相 : ハイルッラー・ハサン・バービキル (PUK) スンニー
保健相 : マジード・ハミード・アミン (PUK) スンニー
移民移住相 : ディニダール・ナジュマーン
(クルド・イスラム協会) スンニー

クルド系

イラーキーヤ, ワサト等
(主にスンニ派系)

財務相 : ラーフィウ・アル・イーサーウィー (国民未来会合)
電力相 : アブドゥルカリーム・アル・ジュマイリー (改革発展運動)
産業鉱物相 : アフマド・アル・カルブーリー (改革発展運動)
通信相 : ムハンマド・アッラーウィー (イラク国民リスト) ※再任
農業相 : イズィッディーン・アブドゥッラー (イラーキーユーン)
教育相 : ムハンマド・タミーム (国民対話戦線)
科学技術相 : アブドゥルカリーム・サーマッラーイー (刷新)
文化相 : サアドゥーン・ドゥレイミー (IUA)

その他

環境相 : サルゴーン・スレイワ (キリスト教徒)
地方公共団体担当国務相 : トウルハーン・アル・ムフティ (トルコマン)

兼任ポスト

内務相 : 「マ」首相が兼任
国防相代行 : ドゥレイミー文化相が兼任

国家戦略
政策委員会
?

ヌジャイフィー
国会議長
(イラーキーユーン代表)



国民議会
一院制 任期4年
325議席

スヘイル副議長
(サドル派)



タイフル
副議長 (KA) 再任

II. 最近の政治情勢(1)

1. 米軍撤退(12月16日)後の政治対立の表面化

- 12月17日, テロ事案への関与嫌疑からハーシミー副大統領(イラキーヤ)に逮捕状発出。
ハーシミー副大統領はクルディスタンへ逃亡し, カタール, サウジでの滞在を終え, 現在はトルコに滞在中(バグダッドでは欠席裁判が進行中)。
- 12月中旬, イラキーヤ所属閣僚・議員が閣議・国会審議をボイコット。

2. 政治危機回避に向けた動きとアラブサミット

- タラバーニ大統領主催による広範な政治グループが参加する「国民会合」開催への流れが生まれ, 複数回の準備会合を開催。2月にイラキーヤ所属閣僚・議員が閣議・国会審議に復帰し, 3月末のアラブ・サミット開催に向けて, 緊張が一旦沈静化。

◇アラブ・サミット開催(3月29日)◇: イラクのアラブ世界への復帰を印象付ける一大イベント

参加をボイコットする国もなく, 無事開催(但し, サウジ, カタールは大使レベルの参加)

⇒ マーリキー首相にとって更なる権力掌握に弾み

- アラブ・サミット開催後, マーリキー首相が, 憲法上の独立機関(中央銀行, 独立高等選挙委員会(IHEC))に対する介入を実施。また, サウジ, カタール, トルコとの関係が悪化。
⇒ 政治会派がマーリキー首相に対する批判を強める。⇒ 政治対立の再燃

3. マーリキー首相に対する不信任に向けた動き

- 4月28日, バルザーニKRG大統領の呼びかけで, マーリキー首相の政治手法を批判する3政治会派(クルド同盟, イラキーヤ, サドル派)の5指導者が集う「エルビル協議会合」を開催。
→ 会合後に発出された書簡において, マーリキー首相が諸合意を履行しない場合には, 国会において同首相の不信任案を可決させ, 真の国民パートナーシップを実現する旨宣言。
⇒ マーリキー首相に対する不信任案を求める動きが本格化。

II. 最近の政治情勢(2)

4. マーリキー首相に対する不信任に向けた攻防

- 反マーリキー首相は、4月のエルビル協議会合後、エルビル、ナジャフ等で会合を複数回開催。国民同盟に対して、マーリキー首相の後任候補選出を要求。
→サドル師は、「自分のパートナーが124票集めることができれば、(自派の40票を合わせて、) (憲法上、不信任案可決に必要な)164票を実現できることを約束する」旨発言。
⇒5月、マーリキー首相の不信任に向けた機運が高まる。

- 6月9日、タラバーニ大統領府が「必要な支持が集まっていない」として大統領による不信任案提出を否定する声明を発表。20日、同大統領は、治療を目的に訪独。
⇒反マーリキー首相派は、憲法の規定に基づき首相の不信任を実現する第二の方法「国会喚問を通じた首相に対する不信任案の発議」を目指す、喚問が実際に行われるか否かは不明。

5. 今後の見通し

- 今後の可能性として、
 - ①マーリキー首相に対する国会喚問から不信任決議が成立するケース
 - ②マーリキー首相が掲げる早期選挙が実施されるケース
 - ③政治各派の間でマーリキー首相三選禁止についてコンセンサスが成立するケース
 - ④マーリキー首相が国民パートナーシップ政権をやめて、多数派政権を成立させるケース

⇒どれも可能性は低く、国民パートナーシップ政権の枠内でマーリキー首相支持派と反対派が非難の応酬を続ける不安定な内政状況が2014年の次期選挙まで続く可能性が高い。

II. 最近の政治情勢(3)(地域諸国との関係)

- **シリア**:シリア情勢の不安定が国内に波及することを懸念。
 - ・イラクは、昨年11月、アラブ連盟のシリア加盟権停止決議を棄権。しかし、本年1月・2月の対シリア決議には留保を付けず、2月末、マーリキー首相は「イラクはシリアでの変革を支持」と発言。アラブ・サミットにシリアを招待しないことを決定。(サミットへのアラブ諸国支持取り付け目的?)
 - ・サミット終了直後、マーリキー首相は「アサド政権は崩壊しない」と述べ、シリア反体制派への武装を支持するサウジ・カタールを批判。しかし、その後は、比較的中立的な発言に始終し、隣国及びアラブ・サミット議長国としてシリア情勢へのイラクの関与を要求。
- **イラン**:イラク国内のシーア派各派への影響大。イラクにとっては引き続き無視できない重要なアクター。
 - ・5月23, 24日, イラン核問題に関するEU3+3とイランの会合をバグダッドで主催。核問題については「平和目的であれば認めるべき」との立場。イラクは、原油輸出の主ルートであるペルシャ湾岸の不安定要素は望んでいないことから核問題の解決に進んで参加している。
 - ・マーリキー首相に対する不信任要求に対しては、イラク国内の政治各派に圧力。
- **サウジアラビア**:イラクに関係改善の意志あるもサウジ側の反応薄。
 - ・サウジによる駐ヨルダン大使のイラク兼轄, 両国間の実務的な接触(国境管理等)のみ。
 - ・シリア問題では対立。
- **カタール**:シリア問題, ハーシミー副大統領の受け入れを巡って大きく対立。
 - ・イラクの大国としてのプライドからくる反発あり。
- **クウェート**:3月, マーリキー首相の同国訪問。アラブ・サミットにサバーハ首長が出席。4月, バグダッドで共同委員会を開催, 債務問題や国境問題等で大きな進展。両国関係は大きく改善。
- **トルコ**:1月, イラクでの宗派対立を懸念するトルコ首脳発言を, イラクは「内政干渉」と非難。マーリキー・エルドアン両首相間の言葉の応酬に。駐イラク・トルコ大使館が迫撃砲攻撃に遭い, 一時緊張が高まったが, その後沈静化。

III. 治安情勢

1. 全般

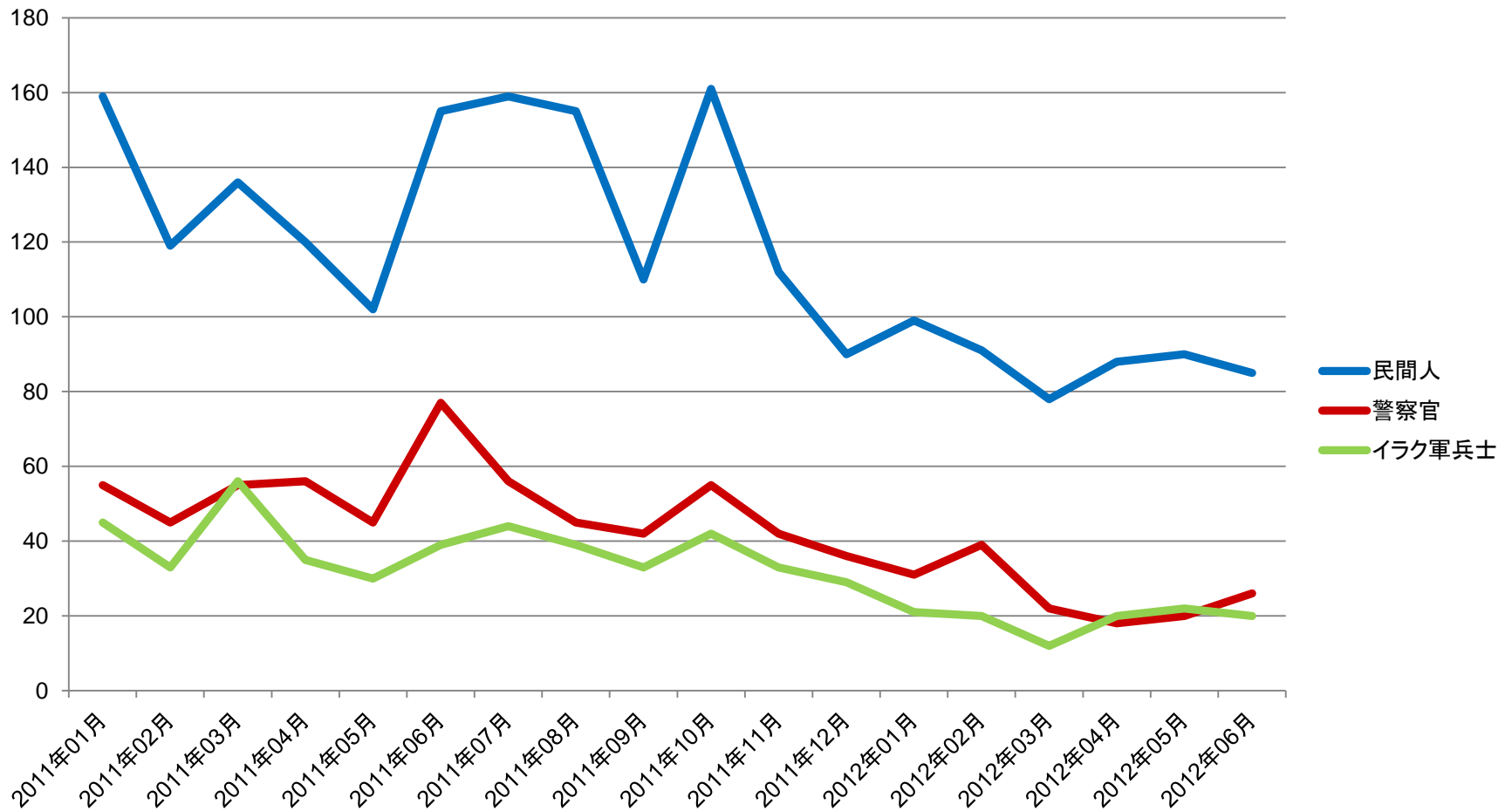
- － 2007年後半以降、全般的な治安の改善傾向は継続。
- － イラク側発表の治安事案でのイラク人死者数は、3605人(2010年)⇒2645人(2011年)と約千人減少。
- － 米軍撤退直後、一時、政治情勢の不安定化と大規模なテロ事件の発生が見られたが、その後、治安は大きく悪化しておらず、昨年11月以降、テロによる死者数は6か月連続減少。本年3月(112名)は2003年以来最少。
- － イラク治安当局(軍・警察)の能力は向上しているが、更なる強化が必要。

2. テロ事件の傾向

- － 米軍撤退によりシーア派ミリシアの活動は低下(特に南部)
アル・カーイダには未だ一定の攻撃能力あり。アラブ・サミット1週間前に連続爆破テロが発生。6月、シーア派関連施設や宗教行事を狙った大規模テロを実施。
- － 大規模テロ事案は月1回程度に減少。警察・軍、政治家、政府高官の暗殺やソフト・ターゲットを狙った小規模爆弾事件。シーア派宗教行事を狙った大規模テロが依然として発生。
- － バグダッドの他、ニナワ県、キルクーク県等で多く発生。クルド及び南部は安定。

Ⅲ. 治安情勢【参考資料】

テロ等によるイラク人死者数



大規模テロ事案は月1回程度に減少。

IV. 経済情勢(1)

1. 好調なマクロ経済

全般的な治安改善傾向，原油生産増等を背景に堅調な成長。

- 原油生産(IMF, mbd): 2.29 (08年), 2.38 (09年), 2.35 (10年), 2.75 (11年), 3.15 (12年)
- 2010-2015年の平均GDP成長率(Citibank): 11.7%(世界第2位)
- 2012年予算: 歳出1001億ドル(前年比21%増)(資本支出は318億ドル, 経常支出は683億ドル)
歳入875億ドル(前年比26%増)(想定油価85ドル, 想定石油輸出260万バレル)
⇒歳出は, エネルギー(17.5%), 安全保障(14.7%), 社会保障(13.3%)等に配分
7月に電力網整備16億ドルを含む補正予算(90億ドル)を策定。

2. 石油開発

豊富な埋蔵量を背景とした積極的な開発方針。

- 第1次国際入札(09年6月), 第2次国際入札(同12月), 第3次国際入札(10年10月)の結果, 14案件が成約。更に第4次国際入札(12年5月)が行われた鉱区中, 2鉱区の探鉱権が落札された。
- 成約案件のプラトー生産量は, 1,200万B/Dに達する(サウジの生産能力と同水準)。

3. 国家開発計画(NDP)

2014年までの開発基本方針を示したNDPを策定。

- 成長率目標: 年平均9.4%
- 目標達成に必要な投資額: 1,860億ドル
(政府1000億ドル, 民間860億ドル)
- インフラ整備(石油, 電力)を重視。

消費財・インフラ分野ともに, 新興国のフロンティアとして,
中長期的に, 膨大なビジネス・チャンス。

IV. 経済情勢(2) 急務のインフラ整備

● 電力

- 深刻な発電能力不足：
供給電力量8,300MW程度に対し、ピーク需要は12,400-13,800MW。
- 全国平均で1日8~9時間の供給にとどまっている。
- 2010年6月にはバスラでの抗議暴動の発生を契機に電力大臣が辞任。
- 電力省は、2015~2030年に770億ドル相当の投資が必要と試算。
(2011年2月発表マスタープラン)

● 石油:

- 輸出能力, 輸送能力の増強が課題。
- ガソリンは輸入依存(約3割, 日量6~7百万L) → 製油能力強化も課題。

● 天然ガス

- 南部の油田地帯では大量の随伴ガスがフレア処理。
(11億cfidのうち7億cfidがフレア処理(報道))
- 新設ガスタービン発電所の燃料に、当面重油を使わざるを得ない事例も。

● 水供給

- 全土で20%の世帯が、安全な水にアクセスできない状況。
- 処理された水道水の50%が漏水等でロス。

V. 日・イラク関係

- 2008年 7月 第1回日イラク経済フォーラム開催(於:アンマン)
- 2009年 1月 安倍総理特使のバグダッド訪問。日イラクパートナーシップ宣言署名
7月 イラク投資ミッションの訪日(石油相, 産業鉱物資源相等)
10月 緒方JICA理事長のイラク訪問
12月 第2回日イラク経済フォーラム開催(於:バグダッド空港, バスラ空港)
- 2010年 6月 シャビービ・イラク中央銀行総裁の訪日
- 2011年 1月 大畠経済産業大臣のイラク訪問。エネルギー対話開催。
2月 官民経済ミッション・バグダッド訪問(於:同市内)
6月 官民経済ミッション・バスラ訪問(於:同市内)
8月 JICAバグダッド事務所開設
11月 第38回バグダッド国際見本市への参加
11月 マーリキー首相訪日(第1回ファイナンス・スキーム会合(於:東京))
- 2012年 1月 第2回ファイナンス・スキーム会合(於:バグダッド)
5月 ズィーバーリー外相訪日, 第一回閣僚級経済合同委員会開催(於:東京)
6月 投資協定署名(於:バグダッド)
中東協力センター・バグダッド事務所開設
7月 イラク復興における日・トルコ協力ビジネスフォーラム
(於:イスタンブール)

<今後の取り組み・課題>

- ・ 新たなファイナンス・スキームの構築
- ・ 医療分野等の産業分野毎による交流
- ・ 消費財輸出支援(バグダッド国際見本市の本格活用等)
- ・ 日本企業進出のためのODA活用
- ・ バスラ県やクルディスタン地域等, 地方との関係強化

(参考資料) 在イラク日本大使館による日本企業支援

1. 情報提供

- イラク情勢ブリーフ・照会対応(現地治安情勢を含む)
- 商談関連情報(含入札情報)
- 経済関係情報

2. 申し入れやイラク側との意思疎通の支援

- コンタクト先の確立, 意思疎通の側面支援
- イラク側担当閣僚等への申し入れ(適切な場合)
- 国際ルールや慣行に照らして, イラク側の政策(税制や規制等)が公正でない場合や, 日本企業が他外国企業に比して不当な扱いを受けている場合の申し入れ。

3. その他

- ビザ・入国の側面支援
- イラク事務所再開, 税免除問題等イラク政府への申し入れ
- イラクご出張時のフォロー(安全確認, 緊急時の保護等)
- 警備会社の紹介

連絡先: 在イラク日本大使館 経済・経済協力班

中山書記官: Tel :+964-770-444-8209 E-mail: tetsuya.nakayama@mofa.go.jp

山田書記官: Tel :+964-770-444-8208 E-mail: yuichi.yamada@mofa.go.jp

内田書記官: Tel :+964-770-444-8206 E-mail: yuichi.uchida@mofa.go.jp